

高病原性鳥インフルエンザの 発生状況及び対策について

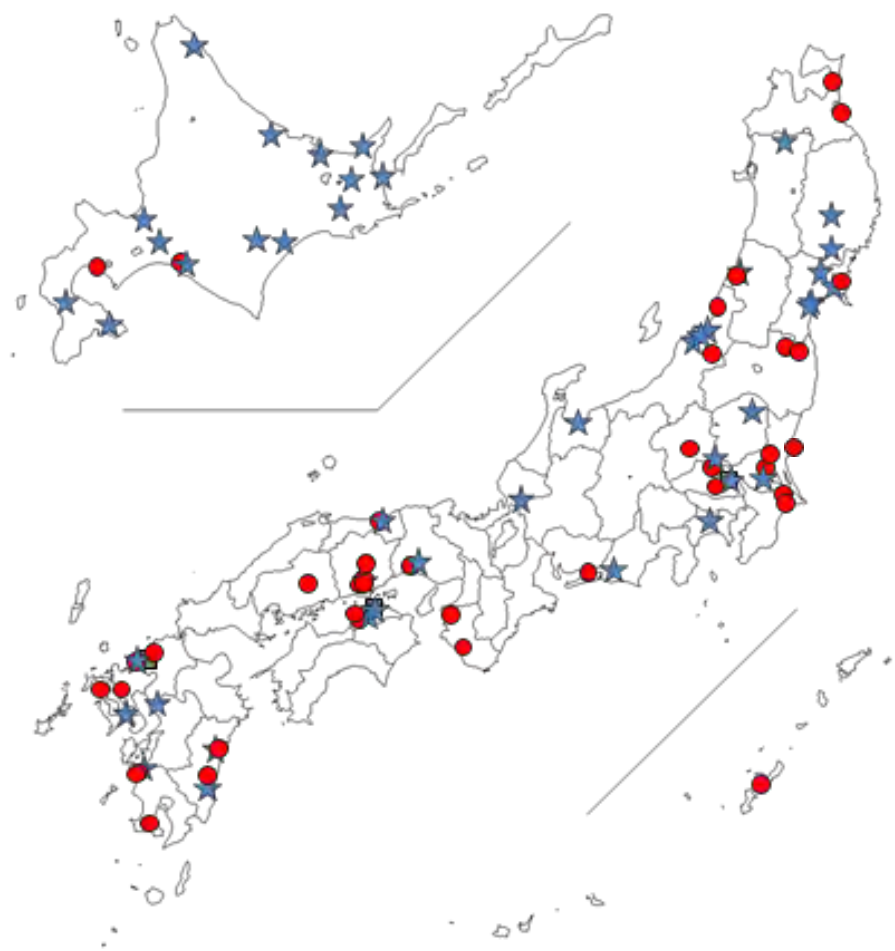
令和5年1月
農林水産省

今シーズンの高病原性鳥インフルエンザの発生状況

○ 今シーズンは、過去最速の10月28日に国内1例目が確認されて以来、1月9日10時時点で23道県56事例発生し、約998万羽が殺処分対象となっており、これまで過去最大の発生であった令和2年度シーズンにおける発生事例と殺処分対象羽数を上回った。

今シーズンの発生状況

● 家きん
★ 野鳥

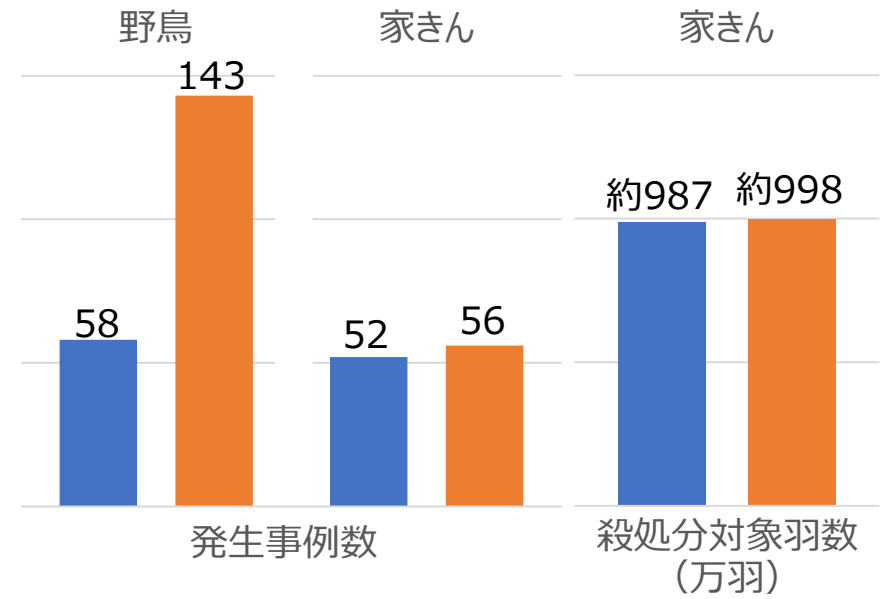


令和2年度シーズンとの比較

(1) 初発確認日

	R 2 年	R 4 年
野鳥	10月24日	9月25日
家きん	11月5日	10月28日

(2) 発生事例数（野鳥、家きん）、殺処分対象羽数



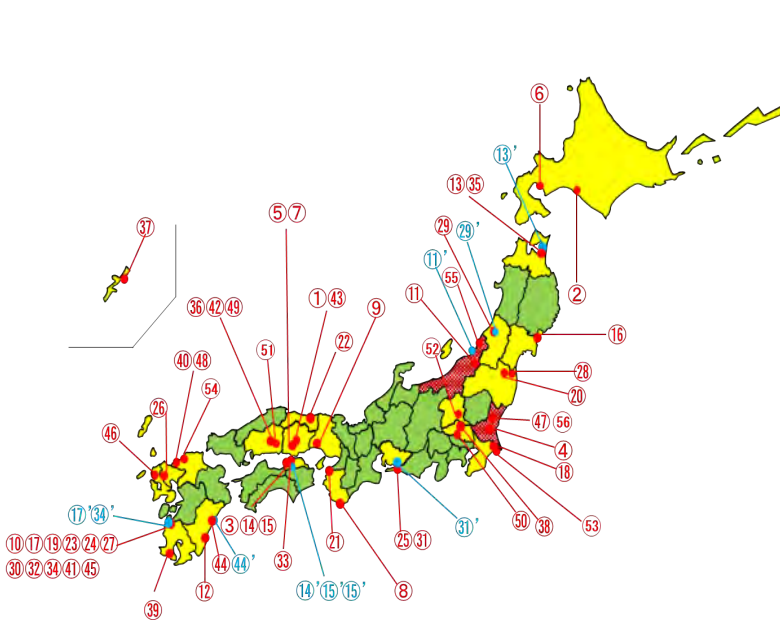
※野鳥における発生事例数は、R2シーズンについては令和3年度末までに高病原性と確認された件数、R4シーズンについては令和5年1月6日までに高病原性と確認された件数(環境省HP参照)

今シーズンの高病原性鳥インフルエンザの特徴

- 海外においては、今シーズンも韓国で発生が確認されているほか、欧米では夏以降現在に至るまで継続して発生が確認。
- そのような中、我が国では、野鳥での感染が**これまでで最も早く（9月25日）確認**。専門家は、全国的に環境中のウイルス濃度が高まっていると考えられると指摘。
- 発生事例数や殺処分対象羽数については令和2年度シーズンを上回ったが、基本的には、**早期発見・早期通報及び防疫措置は適切**にできており、それぞれの発生事例について**早期封じ込めはできている**。

R 4 シーズンにおける防疫措置の進捗状況

※1： 疑似患畜と確認した日 ※2： 飼養羽数は疑似患畜確認時の羽数



: 発生県(殺処分実施中)

: 発生県

: 未発生県

発生場所	発生日 ※1	飼養羽数 ※2	防疫措置に 要した時間	発生場所	発生日 ※1	飼養羽数 ※2	防疫措置に 要した時間
1 岡山 1	10月28日	採卵鶏・約17万羽	約6日	31 愛知 2	12月8日	あひる・約0.1万羽	約2日
2 北海道 1	10月28日	肉用鶏・約17万羽	約6日	32 鹿児島 8	12月9日	採卵鶏・約22万羽	約5日
3 香川 1	11月1日	採卵鶏・約4万羽	約3.5日	33 香川 4	12月11日	採卵鶏・約8万羽	約4日
4 茨城 1	11月4日	採卵鶏・約104万羽	約18.5日	34 鹿児島 9	12月11日	採卵鶏・約2.2万羽	約4日
5 岡山 2	11月4日	採卵鶏・約51万羽	約14日	35 青森 2	12月15日	採卵鶏・約137万羽	約15日
6 北海道 2	11月7日	肉用鶏・約15万羽	約6日	36 広島 1	12月16日	採卵鶏・約12万羽	約9日
7 岡山 3	11月11日	採卵鶏・約3.4万羽	約7日	37 沖縄 1	12月16日	採卵鶏・約4.5万羽	約5日
8 和歌山 1	11月11日	あひる等・約60羽	1日未満	38 埼玉 1	12月17日	採卵鶏・約19.4万羽	約6日
9 兵庫 1	11月13日	採卵鶏・約4.4万羽	約2.5日	39 鹿児島 10	12月18日	採卵鶏・約3.5万羽	約3日
10 鹿児島 1	11月18日	採卵鶏・約12万羽	約3日	40 福岡 1	12月19日	採卵鶏・約5.4万羽	約8.5日
11 新潟 1	11月18日	肉用鶏・約15万羽	約6日	41 鹿児島 11	12月19日	採卵鶏・約7万羽	約5日
12 宮崎 1	11月20日	採卵鶏・約16万羽	約2.5日	42 広島 2	12月19日	採卵鶏・約18.7万羽	約19日
13 青森 1	11月20日	肉用鶏・約12.2万羽	約4日	43 岡山 4	12月20日	あひる・約2.3万羽	約4.5日
14 香川 2	11月22日	肉用鶏・約2.4万羽	約4.5日	44 宮崎 2	12月21日	肉養鶏・約5万羽	約1日
15 香川 3	11月23日	採卵鶏・約1.4万羽	約3.5日	45 鹿児島 12	12月21日	肉養鶏・約3.7万羽	約2日
16 宮城 1	11月23日	肉用鶏・約2.1万羽	約1.5日	46 長崎県 1	12月22日	採卵鶏・約2.7万羽	約2.5日
17 鹿児島 2	11月24日	採卵鶏・約7万羽	約3日	47 茨城県 2	12月22日	採卵鶏・約11万羽	約3日
18 千葉 1	11月26日	あひる・20羽	1日未満	48 福岡県 2	12月26日	肉用鶏・約3.6万羽	約1.5日
19 鹿児島 3	11月27日	採卵鶏・約47万羽	約5.5日	49 広島県 3	12月30日	採卵鶏・約12.7万羽	殺処分終了
20 福島 1	11月29日	肉用鶏・約1.7万羽	約2日	50 埼玉県 2	12月30日	採卵鶏・約13万羽	約4.5日
21 和歌山 2	11月30日	採卵鶏・約4.6万羽	約5日	51 広島県 4	12月30日	採卵鶏・約29万羽	殺処分終了
22 鳥取 1	12月1日	採卵鶏・約11万羽	約5日	52 群馬県 1	1月1日	採卵鶏・約1.5万羽	約2.5日
23 鹿児島 4	12月2日	採卵鶏・約12万羽	約3日	53 千葉県 2	1月3日	採卵鶏・約1万羽	約1.5日
24 鹿児島 5	12月4日	採卵鶏・約3.4万羽	約2.5日	54 福岡県 3	1月3日	エミュー・約400羽	殺処分終了
25 愛知 1	12月5日	採卵鶏・約31万羽	約10日	55 新潟県 2	1月6日	採卵鶏・約130万羽	実施中
26 佐賀 1	12月6日	採卵鶏・約3万羽	約1.5日	56 茨城県 3	1月9日	採卵鶏・約93万羽	実施中
27 鹿児島 6	12月7日	採卵鶏・約6万羽	約1日				
28 福島 2	12月7日	採卵鶏・約10万羽	約4日				
29 山形 1	12月8日	採卵鶏・約2.7万羽	約4.5日				
30 鹿児島 7	12月8日	採卵鶏・約6.3万羽	約7日				

総理指示(10月28日)を受けた対応について

<総理指示> (10月28日)

- ① 家きん業者に対し、厳重な警戒を要請するとともに、予防措置について適切な指導・支援を行うこと。
- ② 現場の情報をしっかり収集すること。
- ③ 鳥インフルエンザと考えられる家きんが確認されたことから、農林水産省はじめ関係各省が緊密に連携し、徹底した防疫措置を迅速に進めること。
- ④ 国民に対して正確な情報を迅速に伝えること。

<対応>

- ① 全都道府県に対し、鳥インフルエンザの早期発見及び早期通報並びに飼養衛生管理の徹底を改めて通知し、家きん農場における監視体制の強化を実施。併せて、経営支援対策を周知。
- ② 農林水産省政務による都道府県知事との意見交換を実施するとともに、疫学、野鳥等の専門家からなる疫学調査チームを派遣。
- ③ 関係省庁(※)と連携し、都道府県が実施する防疫措置(当該農場の飼養家きんの殺処分及び焼埋却、移動制限区域・搬出制限区域の設定、消毒ポイントの設置等)について、職員の派遣等、必要に応じた支援を実施。(また、環境省において発生農場周辺半径10kmを「野鳥監視重点区域」に指定し、県に野鳥の監視を強化するよう要請。)
- ④ 消費者、流通業者、製造業者等に対し、鳥インフルエンザに関する正しい知識の普及等(鶏肉・鶏卵の安全性の周知、発生県産の鶏肉・鶏卵の適切な取扱いの呼び掛け等)を実施。

(※) 関係各省：消費者庁、警察庁、総務省、厚生労働省、農林水産省、国土交通省、環境省及び防衛省

鳥インフルエンザ対策の強化について(家きん農場における緊急消毒)

- 昨年12月22日の鳥インフルエンザ関係閣僚会議での総理指示を踏まえ、家きんでの高病原性鳥インフルエンザ発生道県から、家きん農場において緊急消毒を実施中。
- 現在、発生した23道県のうち、13道県が昨年内に緊急消毒を開始。残りの県についても、今後の緊急消毒開始に向けて調整中。

○緊急消毒

家きんでの高病原性鳥インフルエンザ発生道県から、鶏舎周辺の敷地など家きん農場における消石灰による緊急消毒を支援。

○地域一体となった防疫の取組に対する支援

消毒機器の整備、ため池等での野鳥飛来防止対策などの地域一体となった取組に対して支援。

○農場における飼養衛生管理基準の遵守の徹底

最大限の緊張感をもって、鳥インフルエンザ対策に取り組んでいくことを確認し、幅広い関係者に対し、発生予防及びまん延防止のための対応強化を、野村農林水産大臣が呼びかけ。

○家きん農場における緊急消毒の実施状況

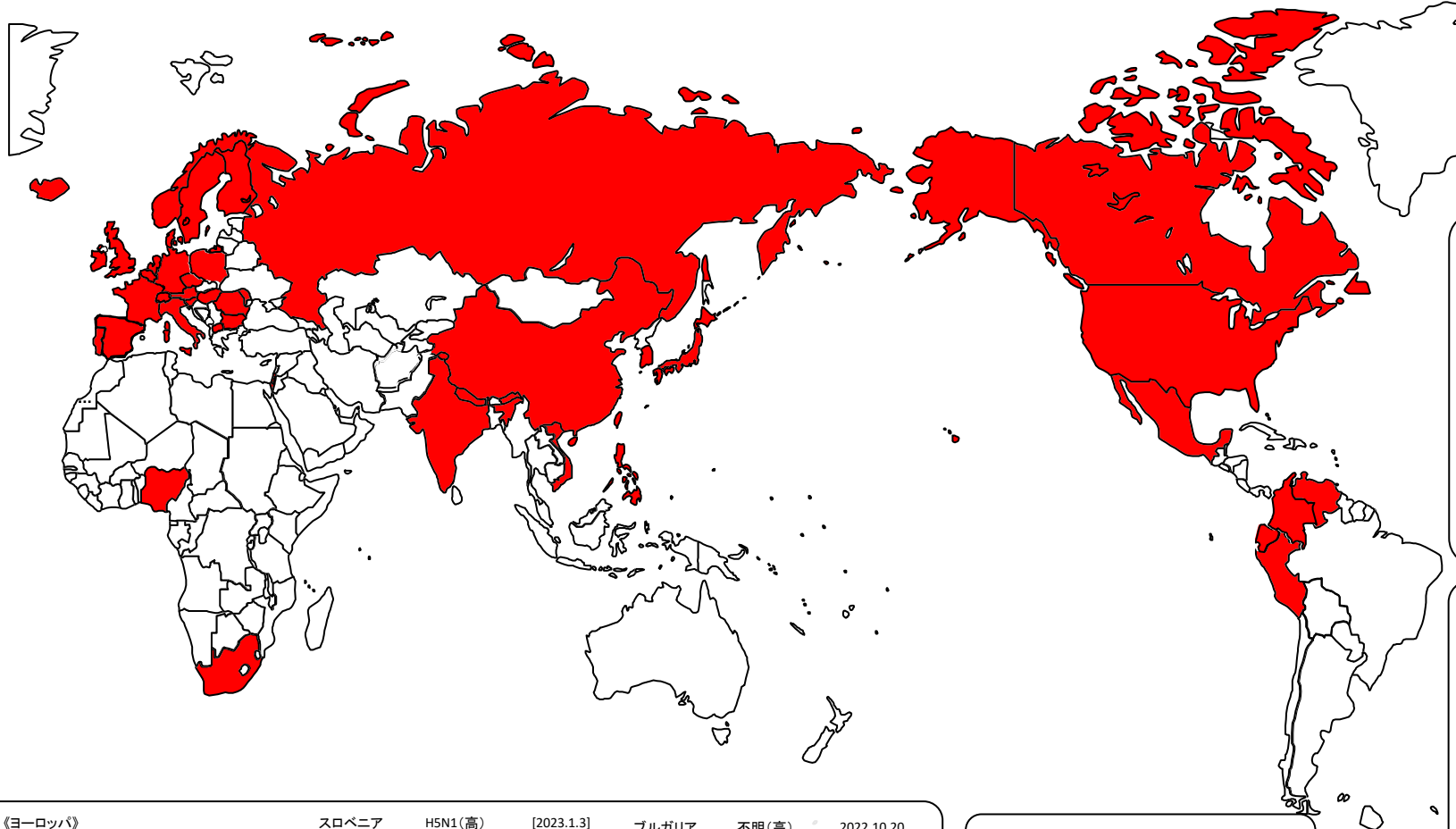
高病原性鳥インフルエンザが発生した23道県のうち、13道県が、令和4年内に緊急消毒を開始。

残りのほとんどの県についても、1月中の開始に向けて調整中。



高病原性鳥インフルエンザの発生状況(2022年7月以降)

■ :2022年7月以降に継続発生
または新規発生した国



《アジア》

日本	H5N1(高)	2023.1.6 [2022.12.28]
韓国	H5N1(高)	2023.1.2 [2022.10.20]
台湾	H5N1(高) H5N2(高)	2023.1.3 2022.12.28
香港	H5N1(高)	[2022.12.5]
インド	H5N1(高)	2022.11.17 [2022.11.18]
イスラエル	H5N8(高) H5N1(高)	[2022.11.28] 2023.1.2 [2022.12.29]
フィリピン	H5N1(高)	2022.8.24
ベトナム	H5N1(高)	2022.10.3

《南北アメリカ》

米国	H5N1(高)	2022.12.20 [2022.12.16]
カナダ	H5N1(高)	2023.1.6 [2022.12.11]
メキシコ	H5N1(高)	2022.12.6 [2022.11.7]
エクアドル	H5N1(高)	2022.11.25
コロンビア	H5N1(高)	[2022.12.8]
ベネズエラ	H5N1(高)	[2022.11.17]
ペルー	H5N1(高) H5N1(高)	2022.11.30 [2022.11.10]

《ヨーロッパ》

アイスランド	H5N1(高)	[2022.10.17]
アイルランド	H5N1(高)	2022.11.18 [2022.12.23]
イタリア	H5N1(高)	2022.11.3 [2022.12.29]
英国	H5N1(高)	2022.12.13 [2022.12.23]
オランダ	H5N1(高)	2022.11.19 [2022.12.23]
北マケドニア	H5N1(高)	[2022.11.2]
スイス	H5N1(高)	[2022.11.28]
スウェーデン	H5N1(高)	[2022.12.28]
スペイン	H5N1(高)	2022.12.14 [2022.11.23]
スロベニア	H5N1(高)	[2023.1.3]
セルビア	H5N1(高)	[2022.11.22]
デンマーク	H5N1(高)	2022.12.31 [2022.12.4]
ドイツ	H5N1(高)	2023.1.3 [2022.11.9]
ノルウェー	H5N1(高)	2022.11.9 [2022.10.3]
ハンガリー	H5N1(高)	[2022.12.24]
フィンランド	H5N1(高)	2022.12.31 [2023.1.2]
フェロー諸島	H5N1(高)	[2022.8.16]
フランス	H5N1(高)	2022.10.2 [2022.9.22] 2022.12.27 [2022.12.21]
ブルガリア	不明(高)	2022.10.20
ベルギー	H5(高) H5N1(高)	[2022.7.8] 2022.12.30 [2022.12.28]
ポーランド	H5N1(高)	2022.12.28 [2022.11.10]
ポルトガル	H5N1(高)	2022.9.27 [2022.11.15]
モルドバ	H5N1(高)	2022.11.11
リユニオン	H5N1(高)	2022.10.1
ルーマニア	H5N1(高)	[2023.1.4]
チェコ	H5N1(高)	2022.12.30

《ロシア・NIS諸国》

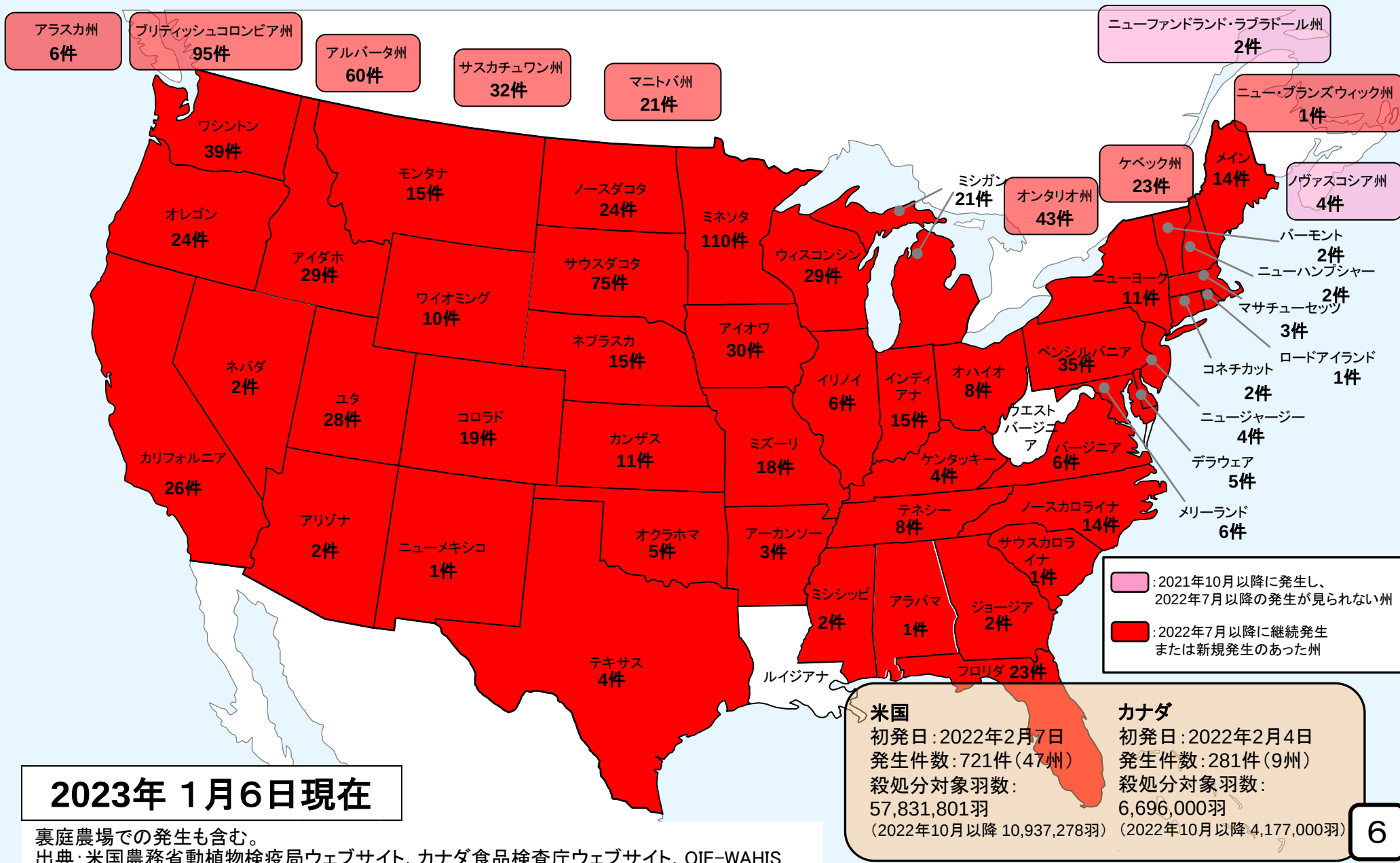
ロシア	H5N1(高)	2022.12.1 [2022.11.22]
-----	---------	---------------------------

《アフリカ》

南アフリカ共和国	H5N1(高) H5N1(高)	2022.10.24 [2022.11.21]
ニジェール	H5N1(高)	2022.12.18

※日付は発生日又は検体回収日に基づく
 ※[]は野鳥及び愛玩鳥等における発生を示す
 ※本図は発生の有無を示したもので、
 その後の清浄性確認については記載していない
 ※型別に最新の発生事例を記載
 ※()は病原性
 ※韓国の野鳥については最新の情報更新が10月20日
 ※白色の国、地域であっても継続発生で報告されていない可能性もある。

北米の家きんにおける高病原性鳥インフルエンザの発生状況(2021年10月以降)



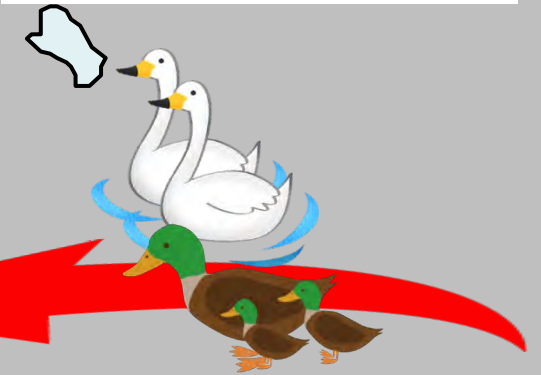
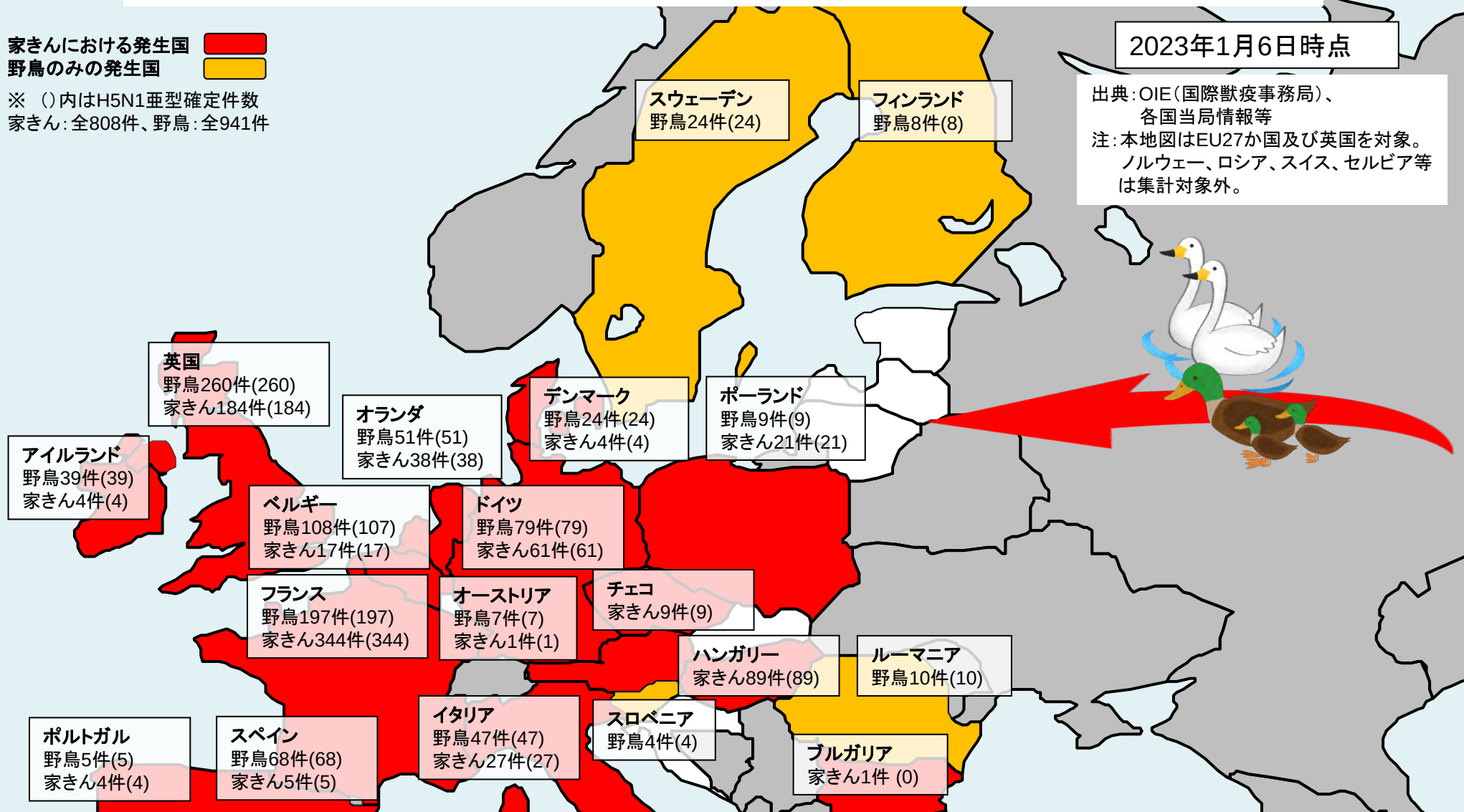
欧州における高病原性鳥インフルエンザの発生状況(2022年7月以降)

家きんにおける発生国 ■
野鳥のみの発生国 ■

※ ()内はH5N1亜型確定件数
家きん: 全808件、野鳥: 全941件

2023年1月6日時点

出典: OIE(国際獣疫事務局)、
各国当局情報等
注: 本地図はEU27か国及び英国を対象。
ノルウェー、ロシア、スイス、セルビア等
は集計対象外。



【今シーズンの発生に関するEU関係機関の見解】

夏季でも野鳥からHPAIウイルスが検出されており、例年よりもHPAI感染のリスクが高い。

特に北大西洋沿岸部において、海鳥の大量死が確認された。

最近の傾向としては、海鳥種でのHPAIウイルス検出数は減少する一方で、水鳥での検出数の増加が観察されている。

HPAIウイルスの家きん施設への侵入には、海鳥よりも水鳥の方がより深く関与している可能性が疑われている。

8 韓国の家きんにおける高病原性鳥インフルエンザの発生状況（2022年10月以降）

2023年1月6日時点
農林水産省動物衛生課

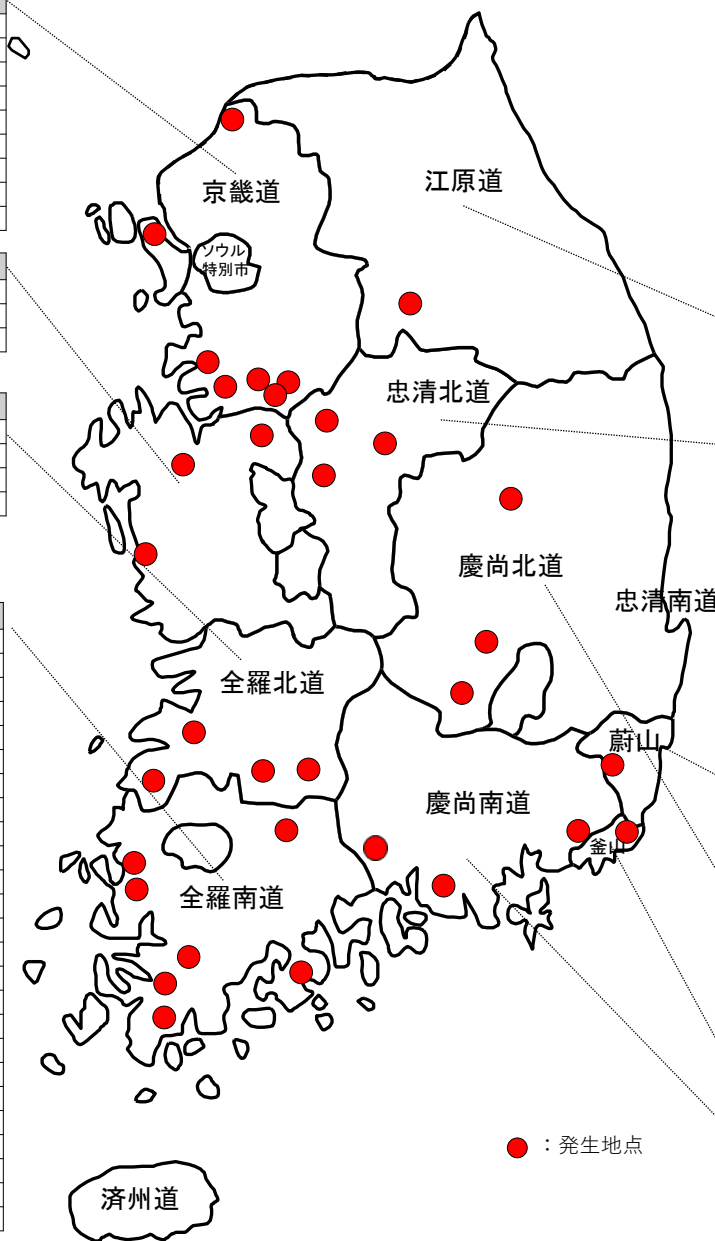
出典：韓国農林畜産食品部

京畿道				
2022.11.15	龍仁市	肉用種鶏	約4.2万羽	H5N1
2022.11.16	華城市	肉用種鶏	約2.4万羽	H5N1
2022.11.17	平沢市	採卵鶏	約0.6万羽	H5N1
2022.11.23	平沢市	採卵鶏	約3.5万羽	H5N1
2022.11.26	利川市	採卵鶏	約17万羽	H5N1
2022.11.29	安城市	肉用アヒル	約1.2万羽	H5N1
2022.12.13	安城市	採卵鶏	約32万羽	H5N1
2023.1.2	金浦市	採卵鶏	約8.0万羽	H5N1
2023.1.2	漣川郡	採卵鶏	約9.3万羽	H5N1

忠清南道				
2022.11.9	天安市	種アヒル	約0.8万羽	H5N1
2022.11.26	洪城市	観賞用鳥類	154羽	H5N1
2022.12.26	礼山郡	採卵鶏	約11.5万羽	H5N1

全羅北道				
2022.11.5	淳昌郡	採卵鶏	約15.5万羽	H5N1
2022.12.2	高敞郡	肉用アヒル	約0.7万羽	H5N1
2022.12.25	南原市	肉用アヒル	約1.2万羽	H5N1
2022.12.31	井邑市	肉用アヒル	約1.1万羽	H5N1

全羅南道				
2022.11.15	長興郡	肉用アヒル	約1.1万羽	H5N1
2022.11.22	羅州市	肉用アヒル	約7.9万羽	H5N1
2022.11.26	高興郡	肉用アヒル	約2.6万羽	H5N1
2022.11.28	羅州市	採卵鶏	約5.5万羽	H5N1
2022.11.28	羅州市	肉用アヒル	約4.6万羽	H5N1
2022.12.1	羅州市	肉用アヒル	約1.4万羽	H5N1
2022.12.2	羅州市	肉用アヒル	約2.0万羽	H5N1
2022.12.3	務安郡	種アヒル	約0.8万羽	H5N1
2022.12.3	咸平郡	採卵鶏	約41.7万羽	H5N1
2022.12.4	咸平郡	採卵鶏	約8.0万羽	H5N1
2022.12.5	羅州市	肉用アヒル	約1.2万羽	H5N1
2022.12.8	務安郡	種アヒル	約0.6万羽	H5N1
2022.12.8	谷城郡	肉用アヒル	約1.3万羽	H5N1
2022.12.8	雲岩郡	採卵鶏	約9.1万羽	H5N1
2022.12.9	務安郡	種アヒル	約0.9万羽	H5N1
2022.12.10	雲岩郡	肉用鶏	約12.0万羽	H5N1
2022.12.11	務安郡	肉用アヒル	約1.5万羽	H5N1
2022.12.11	雲岩郡	肉用アヒル	約2.9万羽	H5N1
2022.12.11	雲岩郡	採卵鶏	約3.9万羽	H5N1
2022.12.12	咸平郡	採卵鶏	約5.4万羽	H5N1
2022.12.12	海南郡	肉用アヒル	約3.6万羽	H5N1
2022.12.18	咸平郡	種アヒル	約1.6万羽	H5N1
2022.12.21	羅州市	肉用アヒル	約1.4万羽	H5N1
2022.12.22	谷城郡	採卵鶏	約5.3万羽	H5N1
2023.1.5	雲岩郡	肉用アヒル	約2.6万羽	H5*



月	事例数	殺処分羽数
10月	3	約6万
11月	24	約142万
12月	29	約188万
1月	3	約30万
計	59	約366万

※農林水産省にて発生報告ごとに累計 ※予防的殺処分等は含まず
※事例数等は病原性が確定した事例のみ記載

江原道				
2022.11.14	原州市	採卵鶏	約6.7万羽	H5N1

忠清北道				
2022.10.26	鎮川郡	肉用アヒル	約1.8万羽	H5N1
2022.11.3	清州市	肉用アヒル	約1.2万羽	H5N1
2022.11.4	清州市	肉用鶏	約5.6万羽	H5N1
2022.11.4	清州市	肉用アヒル	約1.3万羽	H5N1
2022.11.8	清州市	ウズラ	約49.8万羽	H5N1
2022.11.9	清州市	肉用アヒル	約2.2万羽	H5N1
2022.11.10	清州市	種アヒル	約0.4万羽	H5N1
2022.11.12	忠州市	肉用アヒル	約0.7万羽	H5N1
2022.11.17	清州市	種アヒル	約0.8万羽	H5N1

蔚山広域市				
2022.11.28	蔚山郡	採卵鶏	約6.5万羽	H5N1

慶尚北道				
★2022.10.17	醴泉郡	種アヒル	約1.0万羽	H5N1
2022.10.21	醴泉郡	肉用種鶏	約3.2万羽	H5N1
2022.12.21	星州郡	採卵鶏	約6.6万羽	H5N1
2022.12.23	漆谷郡	採卵鶏	約26.3万羽	H5N1

釜山広域市				
2022.12.19	機張郡	地鶏	220羽	H5N1

慶尚南道				
2022.12.12	晋州市	肉用アヒル	約1.6万羽	H5N1
2022.12.21	河東郡	肉用アヒル	約2.9万羽	H5N1
2023.1.1	金海市	採卵鶏	約12.9万羽	H5N1

※日付は症状が確認された日または検体採取日

※赤字は更新箇所

※*は病原性検査中事例

※★は初発生日（2022年10月17日）